

# 記者発表（配付）資料

平成 23 年 4 月 27 日

| 所属部課 | 館長   | 副館長  | 担当   | 連絡先     |
|------|------|------|------|---------|
| 萩博物館 | 湯本重男 | 樋口尚樹 | 樋口尚樹 | 25-6447 |

|    |   |
|----|---|
| 件名 | テーマ展「知られざる萩の焼物Ⅲ 三見・箕ノ越焼 <sup>みのこしやき</sup> 」について |
|----|---|

萩博物館では今年度エントランスホールの一画などを利用して、時節に応じた年 4 回程度の小展示を予定しています。今回の展示は、その第 1 回目で、「知られざる萩の焼物」として萩市三見地区で作られていた「箕ノ越焼」について紹介します。

箕ノ越焼は、江戸時代の終わりに三見村中山（現、萩市）の藤田長右衛門長貞<sup>ふじたちようえもんながさだ</sup>によって始められました。窯は萩城下から赤間関<sup>あかまがせき</sup>（現、下関市）に通ずる街道沿いの中山三ツ辻<sup>みつつじ</sup>にあり、この場所を箕ノ越と呼んでいたことから箕ノ越焼と名づけられました。現在、窯跡は不明です。

作品は主に素焼の人形ですが、稀に鳥獣の置物や壁掛けなどのほか、木彫りもよくしました。現在、三見には十数体の人形が確認されています。藤田長右衛門は寛政元年（1789）ごろ中山に生まれ、人形作りに巧みであったので、街道を行く旅人たちも土産物として彼の人形を買い求めたと伝わっています。長右衛門は慶応 3 年（1867）に没し、惜しくもその制作は彼一代で終わってしまいました。

1. 会 期 : 平成 23 年 4 月 29 日（金・祝）～7 月 15 日（金）
2. 会 場 : 萩博物館エントランスホール（山口県萩市堀内 355 TEL0838-25-6447）  
※無料で観覧できます。
3. 開館時間 : 午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
4. 展示内容 : 作品 5 点

## 箕ノ越焼<sup>がませんじん</sup>・蝦蟇仙人（山本尚良氏蔵）

ガマを使って妖術を行なったという中国の仙人。三国時代（3 世紀）、呉の葛玄<sup>かつげん</sup>をさし、後には五代後梁（10 世紀）の劉海蟾<sup>りゅうかいせん</sup>をさした。



**箕ノ越焼・布袋**（山本不二夫氏蔵）

中国、後梁（10世紀）の禅僧。四明山に住み、容貌は福々しく、体格は肥大して腹を露出し、常に袋を担って喜捨を求め歩いたという。日本では七福神のひとつ。



**箕ノ越焼・神農**（三島 豊氏蔵）

中国古代の伝説上の帝王。初めて耕作を教え、百草をなめて医薬を伝えた。後世、農業・医業の祖として尊崇された。



**箕ノ越焼・福祿寿**（三見・個人蔵）

中国の仙人で、南極星の化身という。七福神のひとつ。短身、長頭で、ひげが多く、経巻を結びつけた杖を携え、多く鶴を従える。



**箕ノ越焼・張良**（児山栄二氏蔵）

中国前漢創始の功臣（紀元前 168 年没）。秦の始皇帝の暗殺に失敗、のち黄石公から太公望の兵書を授けられ、劉邦の謀臣となって秦を滅ぼした。鴻門の会に劉邦の危難を救い、遂に項羽を平らげ、漢の統一後、留侯に封ぜられた。